

臨床研究に関する情報公開および研究協力をお願い

当院では、以下の臨床研究を実施しております。通常の診療で得られた過去の記録情報をまとめることによって行う研究は後ろ向き臨床研究と呼ばれ、このような研究を行なう際、厚生労働省の「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」の規定により、対象となる患者さんのお一人ずつから直接同意を得るのではなく、研究内容の情報を公開することが必要とされています。研究の実施にあたり、対象となる方の既に存在する試料や情報、記録、あるいは、今後の情報、記録などを使用させていただきますが、対象となる方に新たな負担や制限が加わることは一切ありません。利用する情報からは、お名前、ご住所など、個人が特定できる情報は削除します。また、研究の成果は学会や雑誌等で発表されますが、その際にも個人が特定できる情報は公表しません。

ご自身の試料や情報、記録を研究に使用してほしくない場合や研究に関するお問い合わせなどがある場合は、下記の「お問い合わせ先」までご連絡下さい。研究への参加を希望されない場合、研究対象から除外させていただきます。またこの研究については株式会社日立製作所病院統括本部倫理委員会の許可を得ています。

【研究課題名】硬膜外穿刺前の硬膜外エコーによる脊柱管の画像評価の有用性の検討

【研究責任者名・所属】株式会社日立製作所ひたちなか総合病院 麻酔科主任医長 岡部格

【研究目的】硬膜外麻酔は手術麻酔時の鎮痛法として広く用いられており、優れた鎮痛効果を持つ有用な方法ですが時に穿刺が難しいことがあります。そのため近年、超音波による脊柱管の画像評価法に関する報告が散見されるようになってきています。硬膜外穿刺前に超音波で脊柱管、硬膜外腔、脊椎クモ膜腔の位置を正確に確認することができれば、硬膜外麻酔の安全性・確実性の向上に有用であると考えられます。超音波での確認後の硬膜外穿刺は従来通りの確立された方法で施行しています。

【研究期間】倫理委員会承認日～2020年10月31日

【対象者】株式会社日立製作所ひたちなか総合病院で、2017年4月1日～2019年7月31日の間に手術麻酔時の鎮痛法として硬膜外麻酔穿刺を選択し、超音波でのプレスキャンを施行した20歳以上の症例

【方法】電子カルテ・麻酔記録より病名、施行術式、穿刺部位、脊椎のX-P、CT所見、超音波でのプレスキャン所見、穿刺回数、穿刺時間、穿刺成功率、皮膚から硬膜外腔までの距離、合併症の有無、術後鎮痛効果などに関する情報を入手し統計学的な処理・解析を行う。

【問い合わせ先】

株式会社日立製作所ひたちなか総合病院 麻酔科主任医長 岡部格

〒321-0057 茨城県ひたちなか市石川町20番1 電話（代表）029-354-5111